

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

29年 6月 30日

愛知県知事 殿

提出者

住 所 愛知県名古屋市緑区簗山2丁目1225

氏 名 ニッカホーム株式会社

代表取締役 社長 西田 裕久

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 025 (877) 7549

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称

ニッカホーム株式会社 あま土場

事業場の所在地

あま市西今宿阿弥陀寺27-1

計画期間

平成29年4月1日～平成30年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類

D06 建設業/総合工事業

②事業の規模

230億

③従業員数

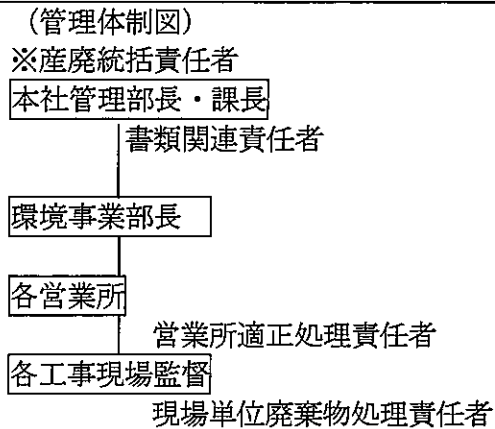
900名

④産業廃棄物の一連の処理の工程

- ☐ 木くず⇒中間処理事業者へ委託(燃料チップ・再生品原料化)
☐ 紙くず⇒中間処理事業者へ委託(再生原料化)
☐ コンクリート⇒中間処理事業者へ委託(再生資材化)
☐ 繊維くず⇒中間処理業者へ委託(堆肥材、再生原料化)
☐ がれき類⇒中間処理業者へ委託(路盤材への再資源化又は埋め立て処分)
☐ ガラス・陶磁器くず⇒(中間業者で選別の上、再資源化又は埋め立て処分)
☐ 廃プラスチック⇒中間処理業者へ委託、選別の上埋め立て又は再資源化
☐ 建設混合廃棄物⇒中間処理業者へ委託(選別の上で再資源化又は埋め立て処分)
☐ 金属くず⇒中間処理業者へ委託(再資源化)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 営業所単位での廃棄物軽減の意識統一 適正な中間処理業者への委託		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 各現場ごとでの分別の徹底 優良認定処理業者への委託		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 木くず・紙くず・繊維くず・ガラス・蛍光管・金属くず・石膏ボード の分別
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃材仮置き場を活用しての分別

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画書 別紙

①現状 【前年度(平成28年度)実績】		産業廃棄物の種類							単位:トン(t)
		プラスチック類	木くず	陶器・磁器くず・陶器・磁器くず・陶器・磁器くず	混合型廃棄物(管理)	繊維くず	がれき類	排出量合計	
①現状	排出量	66	378	51	815	13	212	1,535	
②計画	排出量	55	350	40	750	10	180	1,385	
②計画 【目標】									
①現状	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量								0
②計画	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量								0
②計画 【目標】									
①現状	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量								0
②計画	自ら熱回収により減量した産業廃棄物の量								0
①現状	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量								0
②計画	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量								0
②計画 【目標】									
①現状	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量								0
②計画	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量								0
②計画 【目標】									
全処理委託量		66	378	51	815	13	212	1,535	
①現状	優良認定処理業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	
	再生利用業者への処理委託量	46	378	46	163	13	212	858	
	認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	
全処理委託量		55	350	40	750	10	180	1,385	
②計画	優良認定処理業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	
	再生利用業者への処理委託量	50	350	38	150	10	180	778	
	認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	